

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：2024年 2月 1日

事業所名：レインボーキッズメソッド4 つばき

事業所職員及び保護者の方の御意見を踏まえ、自己評価の結果を公表します。
評価を踏まえて、事業所の運営における課題点及び改善すべき点を確認し、今後の運営に活かしていきます。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	100				60	10	10	20	
	2 職員の適切な配置	25	25	50	・職員不足を感じている。特に課題としては、送迎ができる職員が限られているため、子どもの下校時刻に間に合わず、学校で待たせてしまうこともある。利用人数が多い日には、職員が立て続けに送迎に出るため、運転する職員、事業所で子ども達を見守る職員ともに負担が大きくなっている。子ども達と関わることができる時間の短さを痛感することも多々あり、もう少し職員の人数が増えれば、子ども一人ひとりと向き合い、より一層深い支援を行うことができると思う。	40	10	10	40	安定して勤務ができる職員を確保する。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障がいの特性に応じた設備整備	100			・スケジュールカードやタイムタイマーを活用し、どの子どもにとっても視覚的に分かりやすいような配慮をしている。 ・子ども達の特性に応じて、個別に必要な支援ツールの作成や活用にも取り組んでいる。	80		10	10	
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	100			子ども達の利用の前には丁寧な掃除を行っており、活動時にもこまめな換気や気温調整を行っている。	70		10	20	体調不良時に、子ども達が安心して休息ができるスペースを確保する。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	75	25							
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	25	75		・実地指導もあり、業務の改善について見直しや検討を行う機会をもつことができた。 ・事業所アンケートの結果を踏まえて、業務の改善に努めている。					
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	25	50	25	研修案内などを職員へ周知し、興味関心のあるものには参加をしている。					研修に参加して終わりではなく、資料の共有や学んだことを報告する機会を設けることで、職員全員の学びを深めていく。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標			
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見		
適切な支援の提供（続き）	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	100							60	20	20	
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	100			子ども達の興味関心のある物事を把握し、活動へ取り入れるようにしている。							
	6	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	100			月末にはその月の活動を振り返る機会を設けており、また同じ活動でも担当する職員を変える事で、活動がマンネリ化しないような工夫をしている。				60	20	20	
	7	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	100										
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	100			毎朝のミーティングで、活動内容や当日の流れ、職員の動き等の確認をしている。							
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	75	25		毎朝のミーティングで、支援や活動の振り返り・改善等の検討を行っている。							
	10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	100										
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	100										
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	50	50		サービス担当者が実施される場合には、職員全体での意見を取りまとめた上で、子どもの状況に精通したふさわしい者が参加するようにしている。							
	2	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施		100		該当なし							

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標	
		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
関係機関との連携（続き）	3		100		該当なし						
	4	75	25								
	5	50	50		必要に応じて、情報提供が出来るようにしている。						
	6	25	50	25	研修案内などを職員へ周知し、興味関心のあるものには参加をしている。						
	7	50	25	25		20	30		50		
	8	25	25	50	子ども達の年齢もあり、主体的なイベントの開催が難しい。						活動場所は限られているが、基本的や挨拶や地域にある施設の利用を通して、少しずつ地域との交流を深めていく。
保護者への説明責任・連携支援	1	75	25		利用契約や利用者負担等についての把握及び保護者への説明が十分に出来る職員が少ない。	90	10				職員全体で、利用契約や利用者負担等について確認する機会を設ける。
	2	100				90			10		
	3	50	50		保護者にアドバイスができるほどの専門的な知識のある職員が少ない。	60		20	20		専門機関が開催している研修等へ積極的に参加し、自己研鑽に努める。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標	
		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
保護者への説明責任・連携支援（続き）	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	100			連絡帳の活用や送迎時の引継ぎで、情報共有を図っている。	80	20			
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	100			保護者のお困りごとに対しては、当所での取り組みや成功した事例等をお伝えし、お互いに情報共有をしながら解決の糸口を見出す事が出来るように努めている。	50	30	20		
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	25	25	50	保護者同士で交流したり、情報共有したりする場が欲しいという声も聞かれるが、現在は実施に至っていない。	20		50	30	
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	100			苦情等があった場合には、すぐに職員間で事実確認を行い、迅速に適切な対応が出来るよう努めている。	30	10	10	50	
	8	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	100				80	10		10	
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	50	50		毎月、利用希望表とレクカレンダーを配布することで、行事予定を伝えている。	70			30	
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	100				100				
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	50	50		緊急時等の対応について、把握できていないことが多い。	30	10	10	50	緊急時等の対応について再度職員間で共有を図る。また、保護者への周知も合わせて行う。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	75	25		定期的に避難訓練を実施している。	50			50	

区分	チェック項目	事業所の現状評価			保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標					
		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点		はい	どちらとも いえない		いいえ	わからない	保護者の方のご意見		
非常時等の 対応（続き）	3	虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	100			事業所内外で行っている虐待防止研修に参加をしている。								
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	75	25										
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	50	50		子ども達の食物アレルギーの有無について、把握できていない職員もいた。								子ども達の食物アレルギーの有無について再度職員間で共有を図る。
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	75	25		ミーティング時や必要に応じてその都度、事例を共有できるようにしている。								子ども達の行動特性を踏まえた各活動時の危険予測リストの作成及び職員間での共有を行う。